

まちのキラリびと

敦賀市文化協会データ

会員 60団体、850人
☎ 21-2229
Ⓜ https://ton-bunkyo.org/

敦賀市文化協会

会長 中嶋 翠さん



▲令和3年秋に行われた第61回市民文化祭の様子

心をつなぐ 世代をつなぐ 文化の力

敦賀市文化協会は、市内の文化水準の向上と普及発展を目的に、昭和34年に設立され、今年で63年目を迎えます。

本会では、市民文化祭をはじめ、各団体の発表の場の創出や、団体間の情報共有・相互連携に取り組んでいます。

さて、「文化芸術」は取り組んでいる人だけでなく、それに触れる人たちにも作品の楽しさや感動を伝えたりすることができず。そして、世代を超えて伝え、繋ぐことができるものだと思います。

そうした文化芸術の活動を広げていくためには、ジャンルの垣根を越え、切磋琢磨していくことが重要です。私たちは、団体同士がお互い楽しく、和をもって、ふれあいの輪を広げて皆さんを積んでいただけるように支えていきたいと考えています。

一方で、本会も年々会員数の減少は著しい状況です。社会情勢も変わる中、活動を知ってもらうためにも、HPの充実を図りました。また、新しい部門を作るなど、気軽に会員になってもらえるような取り組みも行っています。さらに、若い世代との連携なども探っていけたらと考えています。既に文化活動を始められている方、これから新たな活動を始めようかと考えていらっしゃる方、ぜひ文化協会にご相談ください。やりたい活動が見つかるように、また、皆さまの活動が豊かなものになるように橋渡しをさせていただきます。

まちの宝を発見！ つるが歴史遺産



文化財保存活用地域計画の策定がはじまります

案内人 学芸員 奥村 香子



▲食文化も「文化財」（ソースかつ丼）



▲名産足田石の狛犬（足田日吉神社）

地域の『たからもの』をみつけよう

敦賀市では令和4年度から「文化財保存活用地域計画」の策定に着手します。この「地域計画」とは敦賀の歴史・文化の特徴やその代名詞である文化財をどのように守り、活用していくかの基本方針や具体的な事業計画を定める、いわば文化財版マスタープランです。

「文化財」と聞くと高価な美術品や古くて立派な建物、伝統のお祭りなどを想像する方が多いのではないのでしょうか。しかし、本当の意味での「文化財」とは私たち自身の暮らしの中にもあります。指定は受けていなくても、地域で大切にしている場所や行事などももちろん「文化財」です。何の変哲もない現代の風景に見えても、その町の歴史が何気ない景色の中に隠れています。

私は県外出身で市役所への就職を機に敦賀に生まれました。勤めて1年ほどたったある日、職場でソースかつ丼の出勤を取る機会があったのですが、私以外の周りの人が当然のようにどんぶりのフタにカツを出して食べ始めたのにびっくりしたのを今でも鮮明に覚えています。ソースかつ丼が名物というのは知っていましたが、「食べ方」も含めて敦賀の文化に触れることができたと感じた体験でした。これももちろん「文化財」といえるでしょう。

地域計画の策定にあたっては、こうした敦賀の中にある様々な「文化財」＝地域で大切にしたい『たからもの』を探していきます。この機会にみなさんも暮らしの中に息づく敦賀の歴史文化をあらためて感じてみてはいかがでしょうか。

広報担当者のつがやき

今回の号をもって、異動となりました。この963号の号数が「ゴクローサン」と労ってくれているようだな…と、おバカなことを考えつつ、次の部署でも頑張りたいと思います。(K)

今回の号から担当となりました。敦賀の行事や魅力をわかりやすく発信できるよう心掛け、頑張っていきたいと思います。広報担当はやっぱり細めとぼっちゃりめコンビで(T)

この欄を楽しみにしてくださってる方に朗報です！私の広報担当続投が決定しました。市民の皆さんに「伝わる」広報紙を目指して頑張りますので、また1年よろしくお願ひします。(M)